

編集後記

編集委員として過ごした2年間は様々な体験をさせていただいた非常に濃密な時間となりました。編集委員の任を仰せつかった時はLHDプロジェクトの終了と新しい所長による構造改革という荒波が核融合科学研究所を襲っている真只中でした。この時、微力ながら研究所の未来についての議論に参加させていただきました。そしてこの出来事は私にとっても研究者としてのキャリアを熟慮する機会となりました。核融合の実現には産学官の協力が重要と言われていますが、実際には日本企業の核融合研究開発への参入は非常に少ないのが現状です。もし産業界から核融合研究開発へ参入する企業があれば、核融合実現のために協力してみたいと考えようになりました。ちょうどその頃、日本電信電話株式会社がエネルギー・環境問題の解決をめざし核融合炉の実現に向けて、ITER機構や量子科学技術研究開発機構と連携をすることを知りました。私は早速応募を行い、企業の研究者として核融合の実現に携わっていくことになりました。大企業の研究所で体験する物事は非常に新鮮であり、新しいキャリアとして申し分のないものでした。特に、企業の研究所の

人員数、予算規模、スピードはアカデミックのそれとは全く異なるものでした。もし日本の産業界が一丸となって核融合の実現に向けた研究開発ができれば、他国に負けないだろうと思います。しかし、現在の日本では産学官の重要性を謳いながら実際にはうまく連携が取れていないと感じます。それは政府内であってもそうだと思います。この不協和音の原因を明らかにし、整えることができれば、日本は世界の核融合炉実現競争に取り残されることなく参戦していくことができるのではないかと個人的に思っています。現在、私は研究開発とは何かと考える中で縁あって、カリフォルニア大学アーバイン校で核融合の研究開発を行っています。私見として、アメリカは産学官で研究開発を円滑に進めることができる環境が整っていると思います。私は核融合の研究者・学生さんには是非色々な環境を体験して個々の視野やキャリアを拓けていただきたいと思います。

最後になりますが、委員長、委員の先生方、事務局の皆様、私の企画記事の執筆を快諾くださった先生方へ、この場を借りて心からお礼申し上げます。(藤原大)

プラズマ・核融合学会 役員

会 長：竹入康彦		
副 会 長：上田良夫 (研究部会連絡会委員長)	米田仁紀 (推薦委員長：研究助成、男女共同参画委員長)	
常務理事：市口勝治 (総務委員長)		
理 事：渥美寿雄 出射 浩 (編集委員長)	井 通暁 大勢持光一 (財務委員長)	
大原 渡 金子俊郎	村上 泉 横峯健彦 (年会運営委員長)	
木戸修一 兒玉了祐 (企画展示検討委員長)	白藤 立 (企画委員長) 花田磨砂也 (推薦委員長：学会賞)	
林 伸彦 (広報委員長) 藤田隆明	渡邊隆行 (支部・地区研究連絡会委員長)	
監 事：立松芳典 前田達志		

プラズマ・核融合学会 領域長

基 礎 井 通暁(東大) 応 用 渡邊隆行(九大) 核融合プラズマ 藤田隆明(名大) 核融合炉工学 上田良夫(阪大)

プラズマ・核融合学会誌編集委員会

編集委員長・チーフエディタ：出射 浩(九大) 副委員長：村上 泉(核融合研)
エディタ：古閑一憲(九大)、比村治彦(京都工繊大)、波多野雄治(富山大)、重森啓介(阪大)、藤田隆明(名大)、村上定義(京大)
編集委員：安部勇輝(阪大)、諫山翔伍(九大)、市原大輔(名大)、井戸 毅(九大)、占部継一郎(京大)、枝尾祐希(量研)、大宅 諒(九大)、勝川行雄(国立天文台)、川手朋子(核融合研)、佐久間一行(弓削商船高専)、佐々木渉太(東北大)、佐藤直木(東大)、神藤勝啓(原子力機構)、鈴木陽香(名大)、關 良輔(核融合研)、高橋宏幸(東北大)、竹崎太智(富山大)、田中 学(九大)、辻井直人(東大)、中村 誠、畑 昌育(量研)、福本正勝(量研)、藤原 大(UCI)、前山伸也(名大)、森田大樹(宇都宮大)、矢嶋美幸(核融合研)

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが学会編集委員会宛ご送付ください。送料当方負担にてお取り替えいたします。

プラズマ・核融合学会誌第99巻第5号

編集・発行
〒464-0075 名古屋市中種区内山3丁目1-1 4階 印刷 株式会社荒川印刷
一般社団法人 プラズマ・核融合学会 編集委員会 2023年(令和5年)5月25日
Tel. 052-735-3185 Fax. 052-735-3485
E-mail: plasma@jspf.or.jp URL: <http://www.jspf.or.jp/> 定価1,430円(本体1,300円)

本誌に掲載された寄稿等の著作権は一般社団法人プラズマ・核融合学会が所有しています。